

国語 第5学年 秋の夕

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

古文の響きやリズムを声に出して確かめ、そこで感じた季節の見方を手掛かりに、自分が見付けた季節の様子を書く。原文の丸写しではなく、自分の観察に基づく表現を選ぶ。単元の終わりに残すのは、古文の響きについてのメモと、自分で見付けた季節の様子を表す短い文章。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)ア	ア 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。
〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと(1)ウ	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

親しみやすい古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しむことができる。季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①親しみやすい古文を音読して、言葉の響きやリズムに親しんでいる。 （〔知識及び技能〕(3)ア）	①「書くこと」において、季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表している。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全1時間（書①）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○古文を音読して季節を示す言葉を確認する。秋に見聞きした変化から、色と動きを表す語を選び、使う理由を確認する。見たことと感じたことを分けて書く。選んだ語と表したかった様子を読み返す。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	教科書の古文を教師の範読とともに読み、印象に残った響きを伝え合う。 使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「古文のどんな言い方が印象に残りましたか。自分なら季節のどの様子を書きますか」 【めあて】古文の響きやリズムを声に出して確かめ、そこで感じた季節の見方を手掛かりに、自分が見付けた季節の様子を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・声に出すと印象に残る響きがある。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「古文のどんな言い方が印象に残りましたか。自分なら季節のどの様子を書きますか」 古文を音読して季節を示す言葉を確認する。秋に見聞きした変化から、色と動きを表す語を選び、使う理由を確かめる。見たことと感じたことを分けて書く。選んだ語と表したかった様子を読み返す。 古文の響きについてのメモと、自分で見付けた季節の様子を表す短い文章。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・声に出すと印象に残る響きがある。 ・昔の文章と同じ季節でも自分が見た場面は違う。 ・見たことと感じたことを分けて書きたい。	教科書の古文を範読し、季節を示す語を手元で確認する。続いて児童自身の観察や教師が示す写真から場面を選び、見えたものと感想を区別して短く書く。作品の本文は配布物へ転載しない。秋の観察では、葉の色と動き、夕方の光など自分が確かめられた変化を選び、色を表す語と動きを表す語の働きを比べる。 想定するつまずき：古文の意味を十分に確かめず型だけをまねる、経験していない場面を事実として書く。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達のことを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・見たことと感じたことを分けて書きたい。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「古文のどんな言い方が印象に残りましたか。自分なら季節のどの様子を書きますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、古文の意味を十分に確かめず型だけをまねる、経験していない場面を事実として書く。この場合は、教科書の古文を範読し、季節を示す語を手元で確認する。続いて児童自身の観察や教師が示す写真から場面を選び、見えたものと感想を区別して短く書く。作品の本文は配布物へ転載しない。秋の観察では、葉の色と動き、夕方の光など自分が確かめられた変化を選び、色を表す語と動きを表す語の働きを比べる。おおむね満足できる状況は、季節の場面から詳しく書く部分を選び、見たことと感想を区別して書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

古文の響きについてのメモと、自分で見付けた季節の様子を表す短い文章。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」147行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

